NPO法人 アジアの新しい風

第72号
2021年
（夏）

この新聞はHP（http://www.npo-asia.org）でも読めます。 上のQRコードを読み取ってください
〒154-0016 東京都世田谷区弦巻2-18-22-414 E-mail：new-wind2006@npo-asia.org

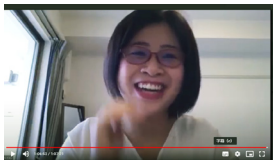
春のＩメイト交流会 ―5月８日― Zoomに105人参加

「外国人に選ばれる国へ―日本の魅力は何か」

準備は３か月前から始めました。セカンドライフに社会落語家を目指した豆生田信一（芸名参遊亭遊助）さんからインタビューを受け、アジ風の歴史を語ってもらいました。

これは交流会の**第一部「創作落語になったアジ風の18年」**になりました。「創設者って誰のこと？」と、面はゆい気持ちですが、生まれて初めて聞いた日本の伝統芸能の落語で「国と国を超えた個人のつながり、草の根の交流、というアジ風の活動がよくわかった」という若者の感想があり、目的が果たせたかなあ、と思いました。

第二部の「日本留学について」も、３か月前からアンケート調査の作成に取り掛かりました。質問項目を設定するとき、肯定的な回答へ誘導することがないよう留意し、日本の大学院で学んだＩメイトＯＢ・ＯＧ 32名から75％の回答率を得ました。この結果を基に、４名のパネリストから、体験や意見を話してもらいましたが、このディスカッションが交流会のクライマックスであったと思います。それは同じくＯＧ でモデレーターの難波慧美さんから、「本音を！」と、巧みな導入があったお陰でしょう。４人はアジ風会員への忖度なしで、正直に話せたようです（＊難波さんはＰ３会員紹介の欄参照）。



〈貿易大学ＯＧで司会、ニュン・ティー・イエンさん〉

「母国で同業種（金融）へ就職した清華大同窓生は、給料が日本にいる私より多額」という中国人ＯＧ 。「英語圏へ留学すれば日本語の負荷がなくてよかったのに」と、日本へ留学したことを悔いるベトナム人ＯＧ もいたりして、なるほどと思ったり、「日本は文化的に多様性が少ない」というコメントにも肯きました。

このような意見はあるもの、アンケートの92％は日本の大学院で学んだことをよかったとし、それにはアジ風Ｉメイト会員のサポート（困ったときの相談相手や、修士論文へのサポートなど）が大きかったと、評価しています。留学全体への評価は、「複眼的思考―いろんな視点から考えるーことができるようになった」ということで、これはアジ風の理念である「多文化共生」につながることだと思います。

〈貿易大学ＯＧでパネリスト レー・マイ・フォンさん〉

これらの発言を聞いた後の、**第三部グループディスカッション**では、大勢の男性会員から、日本の国力の凋落を憂慮する声があったようです。戦後驚異的な経済復興をなしとげた日本で、そのエネルギーの中核をなした人たちからは、米中の競争からは遠く遅れ、いずれアセアン諸国でも後進国になりつつある、という日本を嘆く声が多く聞かれました。交流会後に事務局へ届いたメールにも、「経済的魅力が低下すれば、日本語志望の学生が減り、レベル低下するのでは」と案ずる声がありました。もちろん経済力は国力の大きな要素であることは否定しませんが、それを成し遂げ継続するために、日本社会が犠牲にしてきたことは少なくないと思います。「過労死」「引きこもり」「熟年離婚」などなど、流行語が次々に浮かんできます。

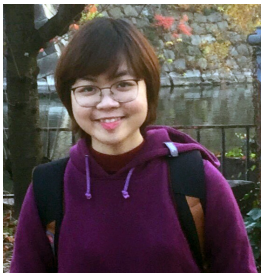
〈タマサート大学ＯＧでパネリスト、ドゥアンケーオ・スットプラーさん〉

鷗友学園（在世田谷区中高一貫校。国際理解教育として10年近くアジ風活動にゲスト参加）からの生徒たちは、「多様な参加者の意見を聞くことができて、視野が広がった」「英語が話せなくても国際交流ができる」など、肯定的な意見が多かった中で、事務局の運営（スケジュール管理やファシリテーターへの提案）など 率直なコメントもあり、今後の運営にとって示唆に富んだものでした。

ある会員の言葉が深く印象に残り、同感しています。「だれもが一,二位を争うわけにはいかない。歴史上でハードパワー（経済力と武力）の競争は繰り返されてきているが、三位以下でも幸せな国はある。日本は幸福指数第一位を目指せばいいのでは」。では、外国人を惹きつける日本の魅力は、経済を除けば何でしょうか？ その一つに、このところ聞き飽きた感じがする「安心・安全」があるのではないでしょうか。ただ繰り返すだけでなく、政府はもっと科学的データ(国際比較で犯罪率の低さ、外国人が日本を選ぶ理由)などを示して日本人が自信を持てるようにしてほしいと思います。先述のアンケートでも、日本人の真面目さ、誠実さ、マナーの良さを上げるＯＧたちが、多く安堵しました。彼らの期待を裏切ることがないよう、アジ風の運営に携わっていきたい、と今一度心新たにした交流会でした。

〈清華大学ＯＧでパネリスト、王鶴さん〉

コロナが明けたら、新しい留学生を迎えます。Ｉメイト会員のみなさんは、ぜひ日本の魅力を伝えて、彼らが前向きに日本を選び、アジアの懸け橋となってくれるよう、みんなでサポートしていきましょう。Ｉメイト会員のみなさんには、学生が大学を卒業してパートナー解消後も、ＯＢ・ＯＧ への力強いサポートをお願いしたいので、事務局の舞台裏をお知らせしました。



〈貿易大学ＯＧでパネリスト ド・アイン・トウーさん〉

最後に、この交流会のプロジェクトチームは、リーダーが奥山寿子理事、二部のディスカッション関連は上高子、三部のグループディスカッションは武田高理事の３人が、すべてオンラインで打ち合わせ実行したことをお知らせします。

（理事長代行　　上　高子）

タマサート大学　オンラインＩメイト交流会

「私の地元を紹介します」

５月１日にタマサート大学との Zoom 交流会を開催。日本側からは会員 12 名、タイ側はタサニー・メータースピィット先生を含め８名が参加。互いの自己紹介をしたのち、当日のメインである「私の地元を紹介します」というテーマでタサニー先生と学生５名にプレゼンテーションをしてもらった。学生の出身地はタイ各地に及び、地元愛に溢れた紹介をしてくれた。観光ではなかなか訪れないような地域の紹介も多く、日本人会員は興味津々。魅力的な場所も多く、コロナが終息したら是非行きたいとの声も多く上がった。

次に２グループに分かれて親交を深めるためのフリートークを実施。和やかな雰囲気の中、話題はいろいろな方面に及んだ。筆者のグループでは、学生がアニメの話を始めたとき、会員の可愛いお嬢さんが「鬼滅の刃」のマスコット人形をもって飛び入り参入。雰囲気がますます和んだ。他にもタイの少子化の問題、大学でのオンライン授業の難しさについて等も話し合われ瞬く間に予定の時間は終了した。

〈上段中央が筆者〉

参加人数は 20 名と決して多くはなかったが、和気あいあいとしていて発言機会も多くこの程度の人数が丁度良いとの声もあり、今後の参考としたい。参加された皆さんの協力もあり、非常に和やかな楽しい交流会となったことを感謝している。

（タマサート大学Ｉメイト交流コーディネーター　　冨平　茂）

ハノイ貿易大学　スピーチコンテストの報告

「コロナ後の 10 年」

６月６日、オンラインでスピーチコンテストが開催された。貿易大学からチャン・ティ・トウ・トウーイ日本語学部長、グエン・ティ・タン・アン先生、Ｉメイト学生、元Ｉメイト学生（OB・OG）、日本人会員、インドネシアのパジャジャラン大学Ｉメイト学生、鷗友学園の生徒、ゲスト２名、総勢 64 名が一堂に会した。まずトウーイ先生から、貿易大学の日本語学部の紹介と、リモート授業が行われている現況についてお話があった。その後、８人の発表者が一人ずつ、スピーチの動画を発表、正会員の石橋順子さんが、２分間の質疑応答を行った。

〈トウーイ先生〉

1	ド・テイ・トウアン	オンライン教育
2	グエン・ティ・ファン・アイン	未来からの手紙　万事うまくいきますように
3	グエン・ティ・タック・タオ	コロナ後へ私が考えること
4	ド・ティ・キム・タイン	誰も取り残されない社会に
5	チャン・ティ・タイン・ホア	私と甥っ子　コロナの10年後
6	グエン・ティ・カン・フエン	環境安全に考慮した経済発展
7	ド・ティ・タン・トユイ	人々の心理の変化
8	ヴー・デイン・クアン・アイン	コロナ後の世界はどう変わるか

発表後、チャット機能を使った投票が行われ、参加者は 10 グループに分かれて、懇親会に入った。時間は 35 分と短かったが、ファシリテーターが意見を引き出し多彩な参加者たちの交流の場となった。そしていよいよ、入賞者の発表である。

最優秀賞は７番のトユイさん（Ｉメイトは原章二郎さん）、優秀賞は５番のホアさん（百濟久仁子さんＩメイト）と８番のアインさん（原野清さんＩメイト）に決まった。

〈左から最優秀賞のトユイさんと優秀賞のホアさん、アインさん〉

Zoomの便利な機能のスピーカービューを利用し、参加者全員のまえで、三人が受賞の喜びを語り、祝福を受けた。

次に石橋順子さんから、コンテスト全体へ以下の講評があった。学生達は未来へ強い思いを持ち、環境問題など世界に目を向けた姿勢が見られた。又、一次審査に通らなかった学生が「今、僕たち若者が行動する時だ」と、ハングリー精神を表明していたのが心に残った。今回のオンラインでのスピーチコンテストで、デジタル技術を使った発表もあったが、この評価をどのようにするか、これからの課題である。

〈講評をする石橋順子さん〉

ここでゲストの一人である、日経新聞ハノイ支局長の大西智也氏から、現在のベトナムのコロナ感染状況と、この先の経済見通しについて、興味深いお話があった。

最後は理事長代行の上 高子さんから閉会の辞があり、全参加者への感謝の言葉で締めくくった。

懇親会での感想を幾つか紹介する。（グループによる感想）

- 貿易大学の学生は、10 年後の自国へのネガテイブな感覚が少なく、希望や未来を感じる。
- 学生達のスピーチを聞いて「まだ未来はある」との感を強くした。
- コロナ後の 10 年後、情報格差が進み、社会分断が進まないよう、努力していかなければならない。
- 今回のコンテストで、デジタル技術を取り入れる条件は、統一されていたのか、気になった。

このコンテストの計画がスタートしたのは、２月末だった。プロジェクトチーム（島村美智、奥山寿子、西澤逸実、小林玲子）は、リモートでどれくらいの学生が応募してくるのか、手探り状態にいた。しかし、貿易大学のトウーイ先生、アン先生から、協力を惜しまない旨のメールが届き、大きな励みとなった。お二人は、当日も参加し、一次審査も引き受けて下さった。学生 18 名が応募（内２名は辞退）、学生コーデイネーターのグエン・デユック・マイン君を通じて連絡を取り合った。一次審査の動画提出、二次審査への改良版の提出を締め切りまで待つ緊張感、当日、滞りなく発表を終わらせることへの集中、すべては、参加者の拍手と笑顔で報われた。最後までやり抜いた学生達の頑張りが、プロジェクトチームのエネルギーとなった。トウーイ先生、アン先生、参加学生、審査員の全ての方に、御礼を申し上げたい。一次審査は、貿易大の先生お二人、石橋順子さん、上高子さん、樋口京一さん、福田陽子さん、松野芳夫さんに担当して頂いた。

〈司会のグエン・デユック・マインさん〉

最後に、上さんが、参加者に贈られた短歌をここで発表し、終わりたい。

オンライン　議論白熱　国超えて　みんなで担ぐ　アジ風神輿

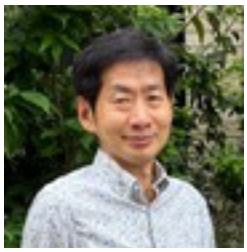
（プロジェクトチームリーダー　理事　　島村美智）

投稿ページ　原稿をお寄せください

―― 初めてのグループディスカッション ――

今回のＩメイト交流会で初めていろいろな人達とのグループディスカッションに参加しました。グループは、日本人会員５人、Ｉメイト ＯＢ・ＯＧ２人、鷗友学園の生徒３人の計 10 人でした。話題は「日本の若者のチャレンジ精神、起業精神の少なさ」についてでした。日本人の目からも外国人の目からも見た印象が似ていて「若者の安定志向、起業しづらい環境」が挙げられました。今回はまさにこれからの若者になる中高生にも意見を言ってもらうと「チャレンジが怖い＝リスクがある、日本の企業に就職」という意見が出ました。やはり安定志向が強いことが感じられました。ただ生徒から「後悔するよりチャレンジしたい」という意見も出たので頑張って欲しいと思いました。 最後に生徒たちから今回参加して「海外の人が身近にいないのでもっと話をして交流を持ちたい」との感想をいただきました。今回の様な活動が少しでも役に立てばと思います。　　（正会員　　川口　祐子）

―― 率直な意見に新たな気づき ――



緊急事態宣言期間中の５月８日、春のＩメイト交流会に参加しました。コロナ禍の最中ですが、100 名以上の参加者がオンラインで一堂に会し、活発に交流できました。第１部は、参遊亭遊助さんの落語で語るアジ風史。面白おかしくも、アジ風の歴史とそれを支えてこられた皆様のご苦労や信念を、改めて学べました。

第２部、ＩメイトＯＧによるパネルディスカッションでは、日本に留学して良かったという感想が多い一方で、日本では英語が身につかない、日本人は競争意識が低くのんびりしている、といった率直なご意見も聞け、新たな気づきがありました。

第３部は短い時間でしたが、９名の小グループで、鷗友学園生とも一緒に、幅広い年齢層で意見交換ができました。SNS を活用したＩメイト交流も効果的だと思います。国境や年代を超えて有意義に交流できたことに感謝します。

（正会員　　深尾　和一）

―― アジアの若者に信頼される日本づくりに貢献を ――

この度お招きいただきました吉開章と申します。Facebook では約６万人の学習者支援グループを主宰し、仕事では外国人のために日本人がやさしくした日本語を使う「やさしい日本語」の社会啓発に取り組み、昨年『入門・やさしい日本語』という書籍を出版しました。

今回８名のベトナムの学生の方々のスピーチをお聞きし、３つの視点から、心を打たれました。

１つめは、学生の前向きな姿勢です。最後の日経の方のレクチャーにもあったとおりベトナムはコロナの抑え込みに成功している国の代表例となっています。日本ではともすればネガティブな方向に向かいがちなところを、彼らは困難の中でも未来を信じていることがよく伝わってきました。

２つめは、プレゼン能力の高さです。このコンテストはスピーチコンテストというよりはビデオプレゼンのコンテストであるとも言えると思います。すなわち言語面以外の要素もうまく使うことも求められています。YouTube や TikTok など、今の若者は動画を使ったプレゼンテーションになれており、おそらく今回の編集もスマートフォンの中ですべて行っていると思います。言語の能力だけでなく、本格的なプレゼン力を試す上でもこのコンテストは有益なものだと感じました。

最後は、Ｉメイトの方々との絆の強さです。小グループでの懇親会にも参加し、今回のプレゼンに至るまでＩメイトの方と何度も何度も相談しながら作り上げてきたことを知りました。それは入賞者のスピーチからも伝わりました。学校の先生ではなく、日本人のパートナーとともに作り上げたスピーチは、その結果よりも、その過程の方に価値があるように思いました。

アジ風のこのような活動は良好な国際関係を築いていく上での強固な礎になっていると思います。今後もぜひ継続して、アジアの若者に信頼される日本づくりに貢献してください。

（やさしい日本語ツーリズム研究会代表　　吉開　章）

会員紹介　難波美慧（張慧）さん

アジ風に創成期から関わり、日本に留学し、日本企業に勤め、日本人と結婚し、日本に帰化し、日本国籍の二人の男の子を育てている難波さん。まさしく、アジ風の理念のお手本のような生き方をしている彼女に話を聞いた。

難波美慧（張慧）さんは 1981 年青海省西寧市で生まれた。師範大学の教授だったお父様が週末の午後には趣味で日本語教本のビデオを BGM のように流していて、自然と外国語にも興味を持った。優秀な張さんは首都北京の北京第二外国語大学（二外）に入った。ご両親も喜んでくれた。

北京へは列車で 36 時間の長旅だった。大学周辺は落ち着いた環境で、中国各地からの新しい仲間達と楽しい大学生活を送った。

2003 年の春、上高子さん（アジ風創設者・理事長代行）が大学に来られ、二外がアジ風の最初の提携校となり、張さんが事務局を担当することになった。その年の７月、“アジアの新しい風”がＮＰＯ法人として認定された。

2004 年９月、二外を卒業後桜美林大学大学院に留学した。淵野辺キャンパスの環境に故郷の安らぎを覚えた。遠い日本への留学についても、ご両親は「しっかり勉強しておいで」とだけ言って背中を押してくれた。

就職先を決めるとき、他人を蹴落としてでもという中国の激烈な競争社会より、皆で支え合って生きていこうとする日本社会の安らぎを選んだ。

間もなく、入社同期の難波さんとのお付き合いが始まり、2010 年の上海万博の時、西寧からやってきた両親に紹介した。その時もご両親は彼女の選択を信頼してくれた。翌 2011 年、晴れて難波美慧となった。2013 年 12 月に帰化申請が認められた。

今は小二と小一の男の子のお母さんである。日本国籍を持つ彼らが将来日本と中国の真の架け橋になるかもしれないが、「それはあの子たちが自分で決めることですよ。私のようにね。」とニッコリ微笑んだ。

インタビュアー：園田　成和

Ｉメイト便り　Ｉメイトって？ Internet, 愛,（出）会いのアイ

今回は一番新しく交流校となり、ジャカルタやジョクジャカルタといった大都市ではなく、「バンドン会議」で教科書にも載って知られている場所にあるパジャジャラン大学の学生達と交流されておられるお二人からです。今年２月のオンライン新春交流会では、シニアの日本人会員にもお馴染みの歌謡曲に合わせて元気一杯に踊ってくれた、明るく若々しい学生さん達ばかりの様です。その中の何人かはコロナ禍が収まりましたら、日本への留学希望を持っていると思います。　（Ｉメイト交流コーディネーター　　鈴木　一美）

藤井　衛さんとファーリ デルファリヤディさんの交流

ファーリさん　→　藤井さん　　2020年 10月 12日

はじめまして。日本語学科３年生、ファーリ デルファリヤディと申します。実際は、もっと早くメールを差し上げようと思 いましたが、申し訳ありませんでした。私は日本の文化や習慣や歴史的遺産や 自然的な所に興味を持っています。日本に行ったことがありませんですけれども、いつか日本に行こうと思っています。

藤井さん　→　ファーリ さん　　10月 28日

コロナは依然として収束(しゅうそく）していませんが、いよいよ日本でも紅葉の季節になりました。朝夕は肌寒く感じ、日中は気温 20℃から 23℃と散歩に、スポーツに最適な季節です。

日本では秋を「スポーツの秋」「読書の秋」「芸術の秋」「食欲の秋」などとたとえられています。ファーリさんが「心も鎮まる好季節、日ごとに寒くなりますが･･･」と表現されていますが、まさに一年の内で一番過ごし易(やす）い季節です。私も、趣味にしている「切り絵」作品展に出展しました。作品展の様子を写真集にしましたので添付しておきます。

ファーリさん　→　藤井さん　　11月 28日

吐く息の白さに、秋の終わりを感じる頃となりました。 もうすぐ 2020 年が終わりますね。時間が経ちました。光陰矢の如しですね。この頃、特別なことはありませんか。例えば、イベントとか祭りとか。そういうことはありませんか。

藤井さん　→　ファーリさん　　12月 15日

ファーリさんが知りたがっている、季節の行事について書きます。12月に入ると神社仏閣の大掃除が行われます。そして、新年を迎える初詣の準備が始まります。年末の行事で羽子板市があります。毎年 12月 12日から 17日まで、浅草の浅草寺の羽子板市が有名です(写真を添付しておきます)。

羽子板 は「邪気を払う」意味があります。昔は正月休みに羽子板は競技として行われましたが、現在では女の子のお祝いの飾り物として各家庭で飾られています。

稲村　由佳里さん　と　パニ アグスティナさんの交流

パニさん　→　稲村さん　　2020年 11月 23日

インターンシップのお仕事。私は友達のニナーさんと一緒に、日本人がガルットに遊びに来てくれるように作りました。観光地の案内書。稲村さんはこの booklet に書いてある情報が分かるかな。きっと間違いがまだたくさんあるけど。(「ガルット」という観光地の案内書添付)

稲村さん　→　パニさん　　11月 23日

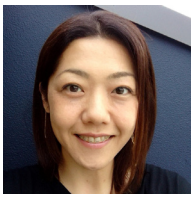
すごい！こんな素晴らしい仕事をしてるんだね！意味わかるよ。一部わかりやすい日本語になるように添削しましょうか。

パニさん　→　稲村さん　　11月 24日

いつもお世話になって申し訳ありません。稲村さんに添削していただいて本当に助かります。ありがとうございます。

観光 Booklet は２部分に分けられています(観光地＝後ろ側、文化と食べ物＝前側)。前側は今までまだデザイン中ですから、先日に送ったイメージは Booklet の後ろ側です。よろしくお願いいたします～。

稲村さん　→　パニ　さん　　11月 27日



遅くなってすみません。添削してみました。

元々の文章も、言葉の使い方がとても上手で本当に感心しています。頑張って日本語を勉強していることが伝わってきてとても嬉しいです。読んでいて「ガルット」に行きたくてたまらなくなりましたよ～。魅力的な場所だということが伝わります。

よく「こなれた日本語」という表現をするのですが、文章の流れで自然な言葉づかいになるよう修正しました。わかりにくい部分があれば何でも質問してください。

パニさん　→　稲村さん　　11月 28日

メール昨日届きました。添削を見たら、勉強になりました。本当にありがとうございました。助かりました。

稲村さん　→　パニさん　　11月 28日

いえいえ、元々の翻訳も十分意味がわかるし、言葉選びが上手！ガルットをネットで検索して調べながら私も訳しました。

パニさん　→　稲村さん　　11月 28日

booklet が出来上がり次第、稲村さんに送ってあげます。

今後の行事予定

＊詳細はＨＰを参照

9 月 12 日（日）

第 19 回アジアの新しい風総会
（詳細未定）

・・・編 集 後 記・・・

日経新聞コラムに、「健全なる精神は健全なる身体に宿る」が引用され、大坂なおみ選手についてのコメントがあった。「トップアスリートなのだから、メンタルだって強いはず―。私たちはなぜ、そんな勝手な思い込みをするのだろう」と。大坂選手は、大きなプレッシャーと戦いながら孤独に耐えてきたのだ。思い込みは怖い。国、年齢、性別にとらわれず、開いた心で他の人と接することができれば、つながりは拡がり絆が生まれていくのではないだろうか。

「春のＩメイト交流会」「貿易大学スピーチコンテスト」は、まさにその絆を生む原動力である。元留学生達が、自分の経験を伝え合い、新しい関係を模索することで交流の輪が広がる。スピーチコンテストでは、コロナ禍の下、誰も取り残されない社会をめざそうとのメッセージが発せられた。10 年後が楽しみだ。

（島村　美智）